

会 派 代 表 質 問

(通 告 内 容)

令和8年9月

那須塩原市議会定例会議

【質 問 者】

【令和8年9月7日（月）】

- 1 9:25～ シン・那須塩原
議席番号 21番 松田 寛人議員

受付番号	令和 8年 8月24日
第1号	午前 10時30分受付 午後

令和 8年 8月24日

那須塩原市議会議長 齊藤 誠之 様

会派名 シン・那須塩原
議席番号 21番 松田 寛人

会派代表質問通告書

令和8年9月那須塩原市議会定例会議における会派代表質問を下記のとおり通告します。

記

質問事項	質問の内容（詳細に）
1. 令和7年度決算を踏まえた持続可能な市政運営について	令和7年度決算は、一般会計の実質収支が黒字となり、経常収支比率も改善するなど、財政面では一定の成果が示されました。一方、人口減少や少子高齢化、社会保障費の増加、物価・人件費の上昇、公共施設やインフラの老朽化など、本市を取り巻く環境は今後さらに厳しくなることが予想されます。 このような中、決算を単に予算執行の結果として捉えるのではなく、どのような成果が得られたのかを検証し、その結果を今後の市政運営や予算編成に生かすことが重要と考えます。 また、歳出の適正化に加え、自主財源を確保する「稼げる自治体」に向けての取組や、20年、30年先を見据えた持続可能な行政運営も必要です。 そこで、令和7年度決算をこれまでの行政運営を検証する機会と捉え、今後の市政運営について、市長の所見を伺います。 (1) 令和7年度決算評価と今後の市政運営について ① 実質収支、経常収支比率、基金残高、市債残高等を踏まえ、令和7年度決算をどのように評価しているの

	か。また、経常収支比率が改善した要因をどのように分析しているのか。 ② 人口減少・少子高齢化、社会保障費の増加、物価・人件費の上昇、公共施設やインフラの更新等を踏まえ、今後の財政運営における主要なリスクをどのように認識しているのか。 ③ 令和7年度決算から明らかになった財政上の課題を、令和9年度以降の予算編成及び財政運営にどのように反映させていくのか。 (2) 新庁舎整備と公共施設マネジメントについて ① 新庁舎整備について、建設費だけでなく維持管理費や将来の更新費等を含めたライフサイクルコストをどのように把握し、財政運営への影響をどのように見込んでいるのか。 ② 新庁舎整備をはじめとする大規模事業に多額の財源を投入する中で、他の行政サービスや政策分野の事業費、必要な投資に対して抑制や先送りなどの影響が生じていないのか。また、市として各政策分野への財源配分をどのように判断しているのか。 ③ 人口減少や将来の財政規模を踏まえ、今後の公共施設の維持・長寿命化・統合・廃止等をどのような基準で判断していくのか。 ④ PPP・PFI・指定管理者制度等の民間活力をどのように活用し、市民サービスの向上と財政負担の軽減を両立していくのか。 (3) 成果を重視した行政経営と事業評価について ① 各事業について、実施件数や利用者数等のアウトプットだけでなく、市民生活の改善や負担軽減、地域経済への波及等のアウトカムをどのように評価しているのか。 ② 事業評価の結果、期待した成果が得られていない事業について、縮小・統合・廃止等を含めて見直し、その結果を次年度以降の予算編成に反映させる仕組みは
--	--

どのように機能しているのか。

- ③ 事業の成果や評価結果を市民及び議会に分かりやすく公表し、決算審査をその後の予算編成や行政運営の改善につなげる仕組みはどのように機能しているのか。

(4) 「稼げる自治体」を目指した自主財源の確保について

- ① 市長は「稼げる自治体」をどのように認識し、財政運営においてどのような意味を持つと考えているのか。

- ② ふるさと納税、観光、企業誘致、地域産業振興等における自主財源確保について、令和7年度にどのような成果があったと評価しているのか。

- ③ 企業版ふるさと納税、ネーミングライツ、ガバメントクラウドファンディング等も含め、今後どのような分野を重点的に取り組み、自主財源の確保につなげていくのか。

(5) 将来の人口推計や財政規模を見据えた持続可能な市政運営について

- ① 20年、30年先に必要となる行政コストをどのように見通しているのか。

- ② 今後も重点的に維持・投資すべき分野と、統合・縮小・民間活用等を検討すべき分野をどのように整理していくのか。

- ③ 将来世代に過度な負担を残さず、20年、30年先も持続可能な市政運営を実現するため、市長として今後特に力を入れていく行政改革は何か。